

50年以上、助産師を務めている山本文子さん(高松市)の講演会「いのちと性を考える」が、阿南市の新野中学校であ

った。山本さんは中学3年生を前に、命の大切さについて語った。要旨は次の通り。

みんな愛され生まれてきた

助産師・山本文子さん(高松市)

新野中で講演



「みんな愛まれて生まれた命。大切に」と訴える山本さん―阿南市の新野中学校

性教育というのは命の根源の話で、生き方教育でもある。しかしこれまで学校教育はそこから逃げ、子どもたちに教えてこなかった。それではいけない。命の元には性があり、性に関する知識はきちんとつけなければいけない。知らないというのが最も怖いことだ。

二度と戻らない だから命は大事

は、相手を大切にすること。子どもがいじめの問題がよく報道されている。いじめはもちろん無くさなければならぬが、現実にはなかなか無くならない。だからこそ、いじめられたからと言って自殺するのだけは絶対にいけない。あなたが飛び降りた後、無くなった命を見て誰が泣くか知っているか。あなたたちのお父さんとお母さん。両親は一生そのことを背負って生きていくことになる。命は落としたら二度と戻ることはない。だから命は大事なのだ。

万が一いじめに遭ったら、誰かに「助けて」と言えないことが一番怖い。これは今に限った話ではなく、大人になっても同じ。最近よく起こっている子どもの虐待も同じことで、育児ノイローゼやさまざまなストレスを抱えたときに誰かに「助けて」と言えない親が子どもを虐待してしまう。

あなたたちはちょうど思春期にあたる頃で、反抗期を迎えている人もいるだろう。親に「何で俺を生んだんだ」などと言ってしまう人もいるかもしれないが、みんな愛され、喜ばれて生まれてきた。

私は助産師として3千人余りの赤ちゃんを取り上げ、誕生の瞬間に立ち会ってきた。あなたが生まれたとき、お母さんもお父さんも感動してポロポロ泣いていた。あなたに「生まれてくれてありがとう」と言った。どのお産も、両親や祖父母、病院関係者みんなが待ちに待って、最高に祝福されて生まれてきたということを知ってもらいたい。

これから、愛するということ、生きるということについて深く考え、今を大切に生きてほしい。(三浦麻衣)